

金沢教会 シノドスの取り組みについて

昨年秋より、たびたび話題にしてまいりましたが、教皇フランシスコの呼びかけによって、2023年10月に世界代表司教会議・第16回通常総会（通称：シノドス）が行われることになり、その歩みが昨年10月より始まっています。このシノドスは、第2バチカン公会議以降、2～4年ごとに開催されています。

この会議は、バチカンから世界中の司教団に課題が示され、それに対する各国司教団の回答をもとに作業文書が作成され、本会議に集まった代表司教によって討議なされ、教皇に対して提言が提出されます。それを最終的には、教皇が使徒的勧告という形で答えられるというのが従来のプロセスとなっています。ですから、これまでのシノドスは、バチカンと世界各国の司教団とそのテーマに関係するごく一部の関係者で進められてきました。

しかし、教皇は今回の2023年のテーマを「ともに歩む教会のため—交わり、参加、そして宣教—」とし、「シノドス」（ともに歩む）という言葉の意味にあるように、神の民全体で歩みをともしながら、識別するプロセスを大切にし、おこなうよう呼び掛けています。

そのために、上記で紹介した従来のシノドスの進め方ではなく、「地方教会から来るすべての者に開かれている」ようになるため、各教区で信者1人ひとりの意見に耳を傾けるよう指示されています。その声を各教区レベル、各国レベル、大陸レベルでも討議なされ、それをもとに2023年の会議にむけての議案が作成されるプロセスが示されています。

具体的には、今回バチカンにあるシノドスの事務局から、10の設問が各国に送付されており、名古屋教区も松浦司教から、「各教会で、それらの質問を個人レベルだけでなく、教会内のグループ（多言語のグループ）や、有志の集まりでも、取り組んでもらいたい」と願っておられます。

それにもなって、金沢教会でも宣教司牧評議会において、この取り組みについて検討し、以下の流れで、この課題に取り組んで参りたいと思います。

- ① …書面での記入式でご回答いただく（〆切2月末まで）
- ② …①の回答をとりまとめた結果をもとに、分かち合いの機会を設ける。
- ③ …①②の意見まとめたものを名古屋教区へ提出する。（〆3月中を予定）

司祭チームとしては、今回のこの取り組みを通して、金沢教会のこれまでの歩みを振り返り、そして、これからの歩みの道しるべとして、お互いの理解を深める材料としていくことができればと願っています。

（石川地区司祭チーム）